

送 辞

外を見れば柔らかな春の日がさし、枝葉に愛が注がれ小さな夢見る花の蕾が綻びようとしています。春風がふくこの素晴らしき日に、三カ年の学業を修め、甲府昭和高校を巣立ちゆく第三十五期生の皆様。ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

昨年度までは卒業生を見送る立場にあった先輩方が、今送られる立場にあるということに時の流れの速さを感じています。そんな長いようで短い高校生活の中で、先輩方は私たちにたくさんの事を教えてくださいました。

二年前の春、私たちが甲府昭和高校に入学した時、笑顔で迎えて下さった先輩たちを、今でも覚えています。入学してまもない時、優しく声をかけて下さった先輩方の背中には、歳一つ違いは思えないほど、とても大きな存在に見えました。

その年の六月に第三十六回紫映祭が行われました。テーマは「The GREATEST SHOWA ～みんな違うから輝くんだ～」でした。テーマである「GREATEST」のように、最高の紫映祭となりました。各クラスで協力し、音でつながり合う合唱部門。白熱した戦いが繰り広げられる体育部門。どんな時でも私たちの様子を気にかけて下さり、的確なアドバイスをいただいたおかげで、素晴らしいものを作り上げることができました。本気で取り組む先輩方の姿から、協力することの大切さや努力を惜しまないことの大切さを教えていただきました。

部活動においても、先輩方は私たちのことを常に気にかけて下さいました。先輩方からいただいた厳しいお言葉は、私たちの心の成長に大きく響き、優しいお言葉は、私たちの心の安らぎとなりました。真剣に活動する先輩方の姿は輝かしく、いつまでも私たちの目標でした。部活動の中で過ごした先輩方との時間は、とても貴重なものとなりました。

そして昨年の一。新型コロナウイルスが発現し、凄まじい速さで感染拡大しました。緊急事態宣言による外出自粛により生活

の形が大きく変わってしまいました。約三ヶ月間の登校禁止。そして、例年通りなら行われていた野球応援や強歩大会などの年間行事は軒並み中止となりました。さらに、登校が始まってからもマスクで表情の見えない生活を余儀なくされました。先輩方の最後の高校生活は頓挫してしまい、いつも通りの生活を送ることのできない状況になってしまいました。

そんな中、第三十七回紫映祭が九月に行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程、内容を変更して実施しました。不穏な空気になっており、苦しい生活が続いていた中ででしたが、六人の団長を中心に、学校を明るくして下さいました。感染対策を徹底しながら、何としてでも成功させようという先輩方の意気込みから、学校への愛が伝わってきました。このような状況でも、学校のことを考えてくださる先輩方は私たちの模範となりました。

この一年間、とてもつらくて、とても悲しくて、どうにもならないことだらけでした。大学入試を前にして、授業日数や学力の遅れなどたくさん心配事があったと思います。そんな中でも努力をし、乗り越えてきた先輩方であればどんな困難であろうとも、乗り越えることができると私は確信しています。三年間で培った「自主創造」の精神を心に刻み、自分にできる問題点への解決策を創造し、新たな世界でご活躍ください。

最後に、私たちを正しく導いて下さった先輩方に感謝の意を表し、今後の活躍と健康をお祈りしつつ、在校生一同、心よりお祝い申し上げ、卒業される皆様への送辞とさせていただきます。

令和三年 三月 一日

山梨県立甲府昭和高等学校

在校生代表

生徒会副会長

奈良大河